

# ILC

21世紀の科学を切り拓き、東北と世界を繋ぐ

一関市

# 国際リニアコライダー

International Linear Collider

監修:岩手県

## ILCの費用は?

2007年8月、研究者グループからの発表によると、建設費は、当時のレートで約**7,700億円**。ILCが建設される国は建設費の1/2程度の負担が想定されています。

**建設期間7年、実験期間20年~30年**、年間運転経費約**180~320億円**とされています。



超伝導加速空洞

© Rey, Hori/KEK

## ILC計画の東北実現の意義

東北ILC推進協議会で作成した「ILCを核とした東北の将来ビジョン」では、ILC実現の最大の意義は「**東北の震災復興と再生の原動力となる**」としています。

### 産業振興・革新面

- 経済波及効果…建設から運用の30年間で約4.3兆円
- 東北の産業における技術・産業革新(イノベーション)の促進
- 先端科学技術・産業集積地域としての「東北ブランド」の形成
- 先端科学技術産業の東北への集積の加速化

### 雇用創出・人材育成面

- 雇用創出効果…建設から運用の30年間で約25万人分
- 高度産業人材の育成・集積
- 新産業イノベーションと「東北ブランド」の形成による雇用機会の発生
- 東北の「雇用力」(人材力と雇用機会力)の高まり

### 地域振興面

- 東北の人口流出傾向に歯止め
- 世界との交流による「真の国際性」の涵養
- 東北の「科学技術教育水準」の向上
- ILCを新たな観光資源とする「東北サイエンス・ツーリズム」の活発化
- 東北の都市・地域構造の再編

## 国際科学技術研究圏域

「国際科学技術研究圏域」は、次の3階層で構成されます。

- ①「**中心範囲**」: ILC 国際研究所や住宅などが立地し、中核研究拠点を中心に概ね半径15km~20km圏
- ②「**中域交流範囲**」: 盛岡から仙台に至る範囲
- ③「**広域連携範囲**」: 東北全域と新潟県を範囲

## 「中心範囲」における拠点・地区

### ■「中核研究拠点」(メインキャンパス)

研究所などが集積し、世界最高水準の最先端科学技術の研究が行われます。

### ■「先端産業集積拠点」(科学技術産業パーク)

基礎科学技術と先端技術産業の融合によるイノベーションの創出、ILC関連の研究開発、試作開発が行われます。

### ■「交流居住地区」

外国人と日本人が混住し、日常的に交流します。戸建てや集合住宅など多様な形態の住宅を提供します。

